

肛門管癌についての後ろ向き観察研究

【背景・目的】

肛門管癌は比較的まれな疾患です。一般的な結腸癌や直腸癌と違い、その診療指針について標準的なものはまだ確立されていません。当院で臨床的に肛門管癌と診断された症例について後方視的に検討することは、今後の肛門管癌治療における医学的情報の集積に寄与することができます。

【研究対象者】

2012年1月1日から2021年12月31日までに、当院で肛門管癌と診断した症例

【方法】

各症例の臨床的関連因子(年齢、性別、血液生化学データ、画像所見、病理組織診断、手術術式、薬物療法、放射線療法、経過、再発の有無、生存期間)を後方視的に解析します。

【個人情報保護】

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。さらに、研究目的以外には決して使用されることはありません。なお、この研究は当院倫理委員会で承認されております。上記の研究に登録したくない場合は、担当医または以下にご連絡ください。なお申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

この研究計画についてご質問がある場合は以下までご連絡ください。

【研究責任者】

京都第一赤十字病院 消化器外科

池田純（副部長）・塩飽保博（部長）

Tel 075-561-4961（内線 2090 総合医局受付）